

口本バク  
日容所  
知事局  
十月十五日  
本報日  
才四四号

### 南太平洋大海戦近し

日本軍又ワグ基地上陸  
新鋭大艦隊来航中報す

華府十四日NS報道はソロ  
モ群島制海の鍵とせるワタカナ  
ル危ふしと云ひ海軍省発表として  
次の如く傳へた。

一十月十三日十四夜日本艦隊  
はワタカナル本營並に飛行  
場を砲撃した。

二十月十五日早曉日本軍隊は  
同艦隊護衛下にワタカナル  
本營北端地島に上陸した。

三日本戦艦数隻を破壊せしは  
専ら米國潜水艇隊の殊勲也

尚豪州軍本營附十四日UPは新  
鋭日本艦隊は母艦戰鬥艦を合  
むトランスポートコンボイ南太平  
洋に來航中と発表した。

### 七百五十万の新動員

老兵を新兵と交換せん

華府十四日APは大統領案に  
基つて今週の議會に於て十八歳を  
徴兵適齡とする立法進捗した  
之に仍り一九四三年度には老兵を  
豫備に繰り込みて約七百五十万  
の新兵と交換する編制となる筈  
である。

### 十月十五日の世界

(露)モスカウ十四日UP発報道はス  
ターリングラドが基地と化したこと  
を去り独逸軍は市内線戦を調  
制し全面的に攻勢緩和した。

(独)ウイルクの観測では独逸は  
赤露征伐不可能といふ。

(伊)独逸特使ヒムラー將軍はムッ  
ソリーニと共に會談を遂げたが独逸  
側では單なる私的訪問と云ふも  
一ロズヘルト特使テイラーの入國  
許可ニ米國檢事總長の六十万  
伊太利人解放問題に關する伊  
國將來の態度及び方針につい  
て検討せしものと観た。

(米)極東方面に於て米國潜水艦  
が日本戦艦を破壊せし旨傳へ

国内に於ては今夜半を契機とし  
て自動車タイヤの凍結令発動す  
べく又給料標準率適用範圍内  
に於ての額面決定権は雇主に賦  
與さる旨當局が発表した。

### 戦死傷行衛不明者

華府十四日國際通信発に曰く  
昨年十月七日より本年九月三十日  
までの水兵、海兵、沿岸警備兵  
にして殺死、負傷又は行衛不明と  
なれる者の合計一萬五千四百二十三  
人なり。此内九月二十二日より九月  
三十四迄の死傷者行衛不明者九百  
九十一名は本日其近親者へ通告あ  
り右の内死者百六十一人負傷者二  
百三十八人行衛不明五百九十二名也

### 病院より

△入院 東田春雄(奈良)  
△退院 青木得聞(富山)

### 郵便局より

△配達不能郵便、ケー松野宛パ  
ンステーツ病院より 保管中

### 明日の野球

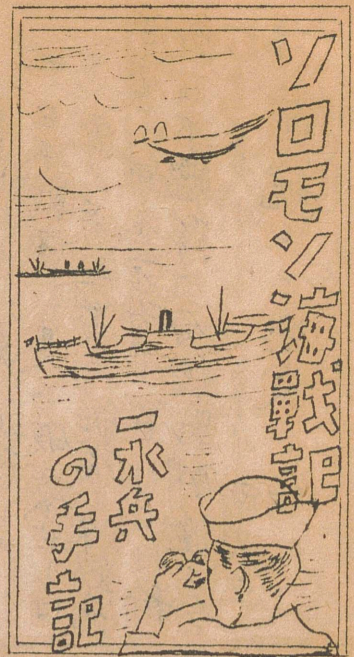
第五中隊對第九中隊は明日第  
九隊中球場にて試合すべし。

モンタナ州大根園だより  
ツルレーキ收容所からモンタナ  
州大根園に労働者大缺乏を補  
ふべく繰出された第二世の心憐  
なまき意見として紹介する。

モンタナ産業の保護戰時労働  
者大不足を補ふべくホルンテヤと  
して出働したか日本人排斥の声  
高く劇場、飲食店、理髪所等  
絶体にサービスを拒まれ破れた農  
舎を修繕して住居とし食料運  
んで自炊し風呂はワシタブに湯を  
沸かして間に合はせてゐる。

一日四席の働きにしかかゝらぬ  
つよらぬか、中止してセントラル  
ろうと思ふけれども契約して働  
關係上中途解約は許されぬ  
遂に高議會議所へ陳情して  
排斥の緩和を要請し會議所  
は是に於てダウンの商業関係  
者を集め協議の結果一週一日  
のジャック・デーを設け活動  
真を觀する事になつた。凶作の  
大根園と知らず收容所の退屈  
から自由の天地を憧れた第二世  
にはよき薬である。





ソロモン海戦記

水兵の手記

東港十三日発 (AP) 敵機から

落した照明弾でソロモン島ツラギ  
港沖の米艦船の所在が日本軍  
艦に曝露せられて八月九日拂曉  
海戦となり米艦三隻沈没  
した。こと本晩當地にて明らかとな  
った。其れは鯨の群れ居る南太平  
洋に於ける激烈なる接戦から  
生き脱がれた者が海軍の許を  
得て實話を記者に語ったからで  
ある。

ヘーガーはテキサス州マルケスか  
ら入隊した一等水兵であるが

テキサス生れの背の高い鋭い  
眼のリン・エフ・ヘーガーは巡洋  
艦アストリア号甲板にて空中  
監視の任に當つて居り最初から  
戦闘を實見した。

其の談にアストリア号、ウィンセン  
ス号及びグインシー号の三艦は  
ツラギ港口の循環監視進行中で  
あつた。  
ヘーガーは遠くで飛行機一機の  
飛ぶ音を聞きつけ直に艦橋の艦  
長に報告した。

ヘーガーは飛行機が雲際よりア  
ストリア号の上空二三百呎に急降  
下して照明弾を発射したと見る間  
に突然、湾の南端の暗から敵の  
探照燈が我が艦を照し全時に  
忽ち砲煙彈雨が艦を包んで之  
れが巡洋艦三隻と乗組員の部  
とを失った戦闘の始まりであつた。  
敵艦の発射する大砲の弾で  
アストリア号は動揺し、彈藥用  
意箱は破裂し艦橋も甲板も  
へこんで

吾々はツラギ海戦の始まりか  
ら三十六時間も續けさまに闘つて  
疲れて居り日本海軍も今夜は  
休み明日早曉から闘つて来るも  
のと豫期して我々も休めると思つて  
ゐたのに意外にも突然照明燈  
砲撃で驚かされスワ戦闘だと  
各員その部署に着くべく走つ  
て行く時に敵の最初の一斉射撃手

を受け逸早く我が砲塔の一は射  
倒された。敵の探照燈が我が艦  
を照すや否や我が艦は方向を轉じ  
て左舷へ発射し始めた。續く



英語

(1) This morning I saw a pair of hares kept at a barrack.  
(2) They were caught in the camp grounds.  
(3) They are very cute, especially when they are eating, which they seem to do all the time.  
(4) "The shoulder-blades of hares and rabbits," said an expert, of the barrack, "are awfully weak."  
(5) (The hares were eating radish despite his criticism.)  
(6) "Look at their eyes," continued my friend, "rather wild, aren't they?"  
(7) One of the hares looked at him.  
(8) "But they will gradually become soft as the fellows grow tame." They smiled.

云ふ(五)が兎殿は批評をよそに赤大根を  
を食べてゐる(六)あの眼附を見給へどこと  
なく鋭いだらう(七)と僕の友人が言葉を續け  
る(八)と、兎の一疋の方が先生の顔を見る  
つれて、眼附も優しくなる」と聞くと、兎は正  
とニコリ笑つた

第二大隊人名簿

第六中隊 第三察

- 愛媛 小島久満吉
- 青森 湊 稻雄
- 福井 本好 乘晋
- 福岡 樋口 彦七
- 福島 田中原 吾
- 廣島 齊藤 長造
- 魔島 稻木 豊次郎
- 熊本 佐伯 弥三郎
- 宮城 荒木 政雄
- 岡山 西島 喬
- 島根 佐藤 長記知
- 静岡 人見 多作
- 栃木 中上 次郎
- 東京 望月 秀雄
- 和歌山 中野 井康
- 山口 成田 区太郎
- 村本 富繁
- 石本 國藏
- 安村 安吉